

株式会社こども保育環境研究所は創立 19 年目を迎えた。

創立した当時スタッフは 7 名。事業の中心は 3 つ「成長のあゆみと園生活」、「米国シアトル海外研修」、「夏期乳児保育研修」とわずかな研修事業しかなかった。その後、全国の先生方からのご要望に応える形で研修事業は拡充していった。

脚本家の倉本聰氏との出会いから富良野での地球環境教育プログラムの研修が始まった。保育界で第三者評価が始まると園運営や組織の研修、そして運営実践書が必要とされ当社は「マニュアル」を作成、全国に販売を始めた。その後、個人が携帯する園のルールブックである「保育クレド」を作り上げる事が出来た。企画から完成品を世に出すまでに約 3 年の時間を要した。この 10 年程は、人材育成に注目が集まるようになり、どのような職員が組織で活躍しているのか、職員の質の向上はどのように取り組むのかなどを検証し、先ず自分自身を知るための性格分析プログラムを開発、保育界専用の「PAP」の提案が始まった。

本当に多くの先生方に支えられ、こども保育環境研究所は 2021 年 4 月に 20 周年を迎える。お世話になっている先生方一人一人を思い浮かべると、ただただ感謝の言葉しか出てこない。現在、スタッフは 20 名以上に増え、皆がそれぞれの部署で力を発揮してくれている。社長である私は全国を巡るのでほとんど会社に出社しない、そんな 18 年の年月を支えてくれたのは優秀なスタッフ。このような会社が 20 年近くも会社の経営を無事に行ってきたのだから、スタッフの優秀さを感じていただけたと思う。

全国の先生方と当社スタッフのおかげで、こども保育環境研究所も私自身も大変恵まれた。

これまでの歩みの途中、とある縁により、北海道のプロバスケットボールチーム「レバンガ北海道」の経営に関わってきた。関連会社のチアダンスチーム及びスクール経営を担っている。当社事業とは異なる業界ではあるが、新しい人との出会いや体験、大きな感動が刺激となり、こども保育環境研究所の仕事にも良い影響があるように思う。

つい先日までは、順調に 20 周年を迎えられると疑うことがなかった毎日であったが、新型コロナウイルスの影響が大きくなるにつれ揺らいできている。さて、さて、さて、ここをどう乗り切れば行けば良いのか先が見えない日々を過ごしている。

全国の園の先生方も、園に通っている子ども達も保護者も、多くの関係者も、戸惑いの中で毎日を過ごしていることと思う。社会が大きく様変わりし、危機に対応しようとしている。

ここは優秀なスタッフと力を合わせて乗り切るしか無い！と私は決めている。

1 ヶ月程前のこと、“園でマスクが不足している”と聞き、私は友人の力を借りて 5,000 枚のマスクをベトナムから輸入し園に送った。今度は“園で体温計が不足している”というお声があったので、お世話になっている法人の理事長先生のご協力を頂き、非接触型体温計 100 本

を仕入れて販売を開始。3日間で100本の注文を受けた。このような商品販売は私共にとって初めての経験だった。

当社主催の研修会は当面延期にした。研修会が開催できないのであれば、成長のあゆみと園生活や保育クレド、PAPの販売に力を注ぐしかない。ここでもスタッフは力を出してくれている。実はオンライン研修の準備を始めている。5月には実施に臨めるであろう。オンライン関連の業務の準備には最近入社した新人スタッフが尽力してくれている。

今、苦しい時だからこそ、社長として明るい未来を語る。苦しさも素直に表現する。決して強がらない。謙虚に考え行動する。仲間を信じて知恵と力を出し合う。

新型コロナウイルスが終息し社会の人々が安心できるその日まで、スタッフと力を合わせ先生方から求められている事業を続け、更に新しいものを創り出す。

これからも私共が必要とされる時、人にも場所にも事柄にも全力で手を差し伸べようと思う。これまでの20年間、手を差し伸べ支えて下さった方々へ恩返しをすることを忘れずに、誠実に日々を過ごしていきたい。

「2020 感謝と覚悟」

2020年4月30日

株式会社こども保育環境研究所
代表取締役社長 畠山和人